

# 不二速報



発行日 2018年6月30日

第1号 2018年度執行部紹介【全教職員配布】

## 2018年度 執行委員です！

より良い職場環境の実現のために頑張ります。一年間よろしくお願い致します。

### 執行委員長 根本 猛（人文社会科学部支部）

今年度、委員長を仰せつかった人文支部の根本です。大学院・学部・共通教育・他大学で憲法を教えています。

1996年度に執行役員、2005年度に書記長、2009年度と昨年度に人文支部長をしました。正直もう隠居という気分だったので(笑)

抱負などを拝見すると他の役員の方々はやる気満々のようですね。私は自他ともに認める怠け者なので期待しないでください。私なんか委員長では組合活動は停滞しますよと申し上げたのですが…… それでも、ということなのでお引き受けしましたが、まあ松田副委員長、石原書記長はじめ他の執行委員の皆さんがしっかりしているので、委員長が根本でも大丈夫という判断なのでしょう。

まじめな話をすると、何かひとつでも具体的な成果があって組合員の皆さんにも喜んでもらいたいと思っています。

2005年度から組合スキーと温泉の集いの幹事をしています。今年度ももちろん企画しますので、ご都合つく方はいかがですか？ 来年1月12日～14日です。



### 副執行委員長 松田 智（工学部支部）

今年度の中執副委員長を仰せつかりました松田智@工学部化学バイオ工学科です。この1年間、よろしくお願い申し上げます。

昨年度は工学部支部の支部長を務めていた関係で、今年度は浜松キャンパスの過半数代表者を引き受け(ざるを得ず・・・)、工学部支部へは今年はヒラ支部員として参加するので、今年は一人三役となります。私個人は、あと2年で定年の身なので、今年の一人三役が「最後のご奉公」と思って、微力ではありますが頑張りたいと思います。

私は92年に本学に赴任したのですが、前任校には教職員組合はありませんでした。私自身、労働者は組合に入るのが当たり前、と言う感覚だったので、本学に赴任してすぐに組合に入りました。誰に勧められることもなく入りましたが、周りを見ると組織率がかなり低いことに驚いたことを覚えています。現在はさらに加入率が低下しており、組合への理解が全く低いことを実感します。より強力なアピールが必要と考えています。

組合歴としては、赴任の翌年、工学部支部の副書記長と言う役職を頼まれたのが役員務めの最初です(今はこの役職は廃止されました)。05年には中執の副委員長、その後は07年、12年と5年おきに工学部支部書記長を務め、その5年後の17年には遂に支部長様に。やった仕事で印象に残っているのは、07年に支部書記長を務めた際、日本国憲法の成立事情を描いた映画「日本の青空」上映会を浜松キャンパス内で実現したことです。この映画は、現在もその価値を失わず、これからも繰り返し上映されるべき作品です。なぜなら、今まさに、平和憲法の価値が、無知と偏見によって見失われつつあるからです。故ワイツゼッカーの「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目になる」を胸に刻むべきです。



史上最低最悪の安倍政権下、国際情勢の緊迫化を口実にして、平和国家日本の姿を変容させて「戦争のできる国」にしようとするキナ臭い動きが目立ちます。秘密保護法、集団的自衛権、安保法制、日本版 NSC 創設、平和憲法改悪の動きなどなど。極めつけが例の「共謀罪」で、国会のルールを無視した無茶苦茶なやり方で成立してしまいました。

今、日本は、近代法治国家の体をなしていないと思います。政権中枢が権力を振り回して行政権の私物化を図り、証拠隠滅のために公文書改ざんまでも誰一人逮捕もされないという、異常事態です。文書の改ざん＝有印公文書偽造は、懲役 1～10 年に相当する歴然たる「犯罪」で種々の証拠も上がっているのに、検察は何もしない。権力に近い人間は何をやっても罰せられることがないのです。これは日本が、司法が存在しない「無司法国家」になっており、三権分立も完全に形骸化し、独裁権力国家に成り下がってしまったことを意味します。それでも内閣支持率がまだ 3 割台を保っているのが不思議です。情報が操作され、多くの国民が正常な思考力・判断力を失っていると思えませぬ。

この意味でも、自分の頭でものを考える習慣を養う教育の重要性は明らかですし、大学内部からの発信は重要だと思います。さらに私たちは、大学人として、教え子を戦場へ送るような事態を招いてはならないし、大学の教職員組合は、自分たちの労働条件改善活動だけでなく、「平和と自由の砦」としての役割も果たすべきだと思います。このような基本的考えの下で、この 1 年間、やれることは何かを追究したいと考えています。

### 書記長(注) 石原 剛志(教育学部支)

(注) 先日の定期大会において、「書記長」は「事務局長」に名称変更となりました。

今期、書記長をつとめさせていただくことになりました石原剛志(いしはらつよし)です。

現在、特に研究しているテーマや対象は、学童保育をつくるために立ちあがった父母や保育者らの運動についてです。働き続けるか育児か二者択一の選択を迫られてきた母親たちが、1960 年代に入ると、各地で保育所や学童保育所をつくりながら新しい生き方をつくりだしていきます。その歩みを、その当事者の苦しみや喜び、矛盾を含めて描き出したいと考えています。

現在、私自身、共働き核家族で、中学生と小学生の二人の息子の子育てをしている父親でもあります。5、60 年前、今日につながる子育てのあり方が生まれようとしていたプロセスと、今の自分の生活とを重ね合わせながら、研究に取り組んでいます。

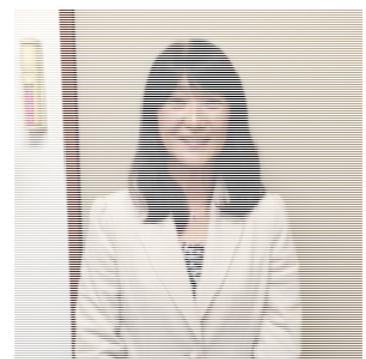
さて、今の私の願いは、家族と共にいる時間、研究する時間、どちらもぜんぜん足りない! なんとかならんかー! というものです。静岡大学に着任してから 10 年ちょっと、どんどん余裕がなくなっていると感じています。だからこそ、組合員みなさんの声、一緒に働いている教職員みなさんの声を聴き、組合だからこそ見えてくる実態をつかんで、少しでも余裕やゆとりを取り返したい、そう思っています。どうぞ、よろしく願いいたします。



### 執行委員 川瀬 憲子(人文社会科学部支部)

この度、4 半世紀ぶりに執行委員を務めさせていただくことになりました、川瀬憲子です。以前は、産休明けでしたが、今回は子育てを一通り終えての執行委員ということになります。国立大学法人をめぐる状況は当時と比べると激変しています。2004 年に全国の国立大学が法人化されて以降、運営費交付金が毎年 1% ずつ削減される一方で、競争的配分経費の割合が増えており、大学間格差もまた大きくなってきています。この間、非正規職員の割合も、6 割にまで劇的に拡大しました。大学間格差もまた大きくなってきている状況にあります。

私の専門は、財政学・地方財政論です。アメリカの州・地方財政や、日本の市町村合併や震災復興財政について研究しています。現場でのヒアリング調査をすることが多いのですが、地域の研究をしておりますと、年々地域間格差が拡大して、大都市部に人口や資本が集中していることがわかります。大規模合



併をした自治体では周辺部の衰退が目立っています。そうした状況下で、地元を中心に雇用創出や移住政策などを積極的に進めて、人口流出に歯止めをかけるといった取り組みを進めている小規模町村も数多く存在しています。

今年3月に、離島を除いて最も小さな村である高知県の大川村に調査にまいりました。幸い、和田村長さんから貴重なお話をお聞きすることができ、新聞報道とは違った側面をうかがい知ることができました。昔、ダム湖に村の中心部が沈んでしまった悲しい歴史がありますが、村全体で地域づくりに取り組んでおり、最近では移住者も増えているそうです。高知県内自治体や地元大学との連携も進められています。

ゼミでは、毎年フィールドワーク教育を取り入れています。昨年度は昼ゼミで静岡市役所と長泉町役場でのコンパクトシティ政策や公共施設統廃合に関するヒアリング調査、夜ゼミでは南アルプスユネスコエコパークにあるリニア新幹線開発現場の視察にまいりました。それぞれ共同論文という形で冊子にまとめています。リニア開発問題では、マスコミからの取材や一般誌（『住民と自治』5月号）からの投稿依頼もありました。

今年度も現場を駆け回る日々が続きそうです。20余年前に静岡県地方自治研究所を立ち上げましたが、故三橋良士明先生（静岡大学名誉教授）の跡を継いで、理事長として研究所の運営にかかわっています。その関係で、自治体労働組合の方々と話す機会が多いのですが、大学を取り巻く状況とよく似ています。いずれも、非正規職員や派遣職員の方々が増えており、非常に重要な仕事をしていただいています。職場の労働環境が少しでもよくなるように、少しでもお役に立てればと思っています。一年間、よろしくお願いいたします。

### 執行委員 大原 志麻（人文社会科学部支部）

本年度、執行委員にお声かけを頂きました人文社会科学部の大原志麻です。長年幽霊組合員だったためわからないことばかりで不安でしたが、先生方がとても明るく和やかに活動されており、安心して務めさせていただけそうです。

大学をめぐる環境は雇い止めの問題や非正規職員の割合と条件の悪さなどから、年々いよいよ職場として成り立たなくなる時が来るのではないかと危機感を高めています。また学生相談員をさせて頂いていますが、ハラスメントの問題についてもまだまだ対策が必要だと考えています。また大学間格差の大きさにも早急な改善の必要性を感じています。

私の専門はスペイン・ラテンアメリカの歴史文化で、主に中近世における政策を取り巻く政治文化やインフォーマルな権力について研究しています。毎年スペイン本国、もしくはスペイン語圏の他の国々を訪れており、それを生き甲斐としています。先に大学教育が崩壊しかかっているスペイン・ラテンアメリカ諸国を見ていると、¡Hay que defender! 職場環境を守らなければ、と戦慄させられます。とはいえ初めての執行委員で右も左もわかりません。皆様のご支援、ご協力を得て、取り組んでまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。



### 執行委員 赤田 信一（教育学部支部）

本年度、組織法制部の仕事を担当させていただくことになりました教育学部の赤田です。これからも組合員の皆さま方からご意見を頂戴しながら、「働きやすい職場環境の維持・向上」を目指し、務めを果たして参りたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

組織法制部の担当者として心掛け、実施したいことは、まず「顧問弁護士の先生の事務所に、足しげく通う」ことです。法曹界と組合との関係性を良好に維持していくための“橋渡し役”を務めることで、組合員の方からの「法的なアドバイスが必要な相談事」に対して、迅速に対応できるよう準備致します。

職場内でのいじめも含め、不当な扱いをされた場合には、遠慮なく組合事務局までご連絡ご相談ください。顧問弁護士の先生のお知恵・お力を賜りながら、機敏に対応させていただきます。

もうひとつは、組合活動の充実・発展のため、組合員の皆さまがそれぞれお持ちになっいらっしゃる専門性・知見をご教授いただくために、「組合員の研究室・職場にも、足しげく通う」ことです。例えば、「長時間労働の削減に向けたより実効性の高い制度づくり」、「裁量労働制の問題点の解決」、「非常勤職員の無期雇用転換に向けたより実効性の高い制度づくり」、「安全で美しい大学環境づくり」等々の課題解決に向けて、その分野に関する“学内のスペシャリストの先生方”にご指導いただける仕組み・ネットワークを構築したいと思います。メールだけのやり取りではなく、直接お会いしてお知恵を拝借することで、改善すべき職場の課題を掘り起しつつ、その解決に向けての方策を導いていきます。大学のなかでお困りになっている方々を、組合員同士で、これまで以上に強力で救済・サポートができる仕組みづくりに努めます。



教職員の“安心・安全”が保障され、研究・業務に対する“向上心”が維持され、“学生への教育的愛情”が十分に発揮される職場環境づくりを目指します。

他大学との統合や改組等々、様々な計画が持ち上がってきますが、大学の発展のための何より大切なものは、そこで働く人々の“労働環境・労働条件”だと思います。“労働環境・労働条件”の良い所に人は集まります。人が集まる大学こそ、この時代を生き抜いていける大学と成り得るのではないのでしょうか。

職場あつての私たち。組合活動を通して、大学の発展に寄与できれば幸いです。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

### 執行委員 米原 優（教育学部支部）

本年度、執行委員となりました教育学部支部の米原優です。倫理学を主に研究しております。倫理学というのは、簡単に言ってしまうと、「何が正しい行為で、何が不正な行為なのか」を研究する学問です。こうした問題に関する研究者たちの見方は、多種多様で議論が絶えないのですが（だから、研究のしがいがあるとも言えるのですけども）、倫理学者たちが、ほぼ一致して不正と考える行為の一つに、「ただ乗り（フリーライディング）」というものがあります。これは「何らかの制度が提供する便益は享受しながら、その制度を維持するのに必要な負担は他者に転嫁する行為」です（井上達夫『法という企て』、東京大学出版会、2003年、18頁）。



私はこれまでこの組合という制度から多くの恩恵（便益）を享受してきましたが、その維持のために必要な負担を十分に引き受けてきたとは言い難いところです（数年前に一度、教育学部の支部員をやったことがあるだけです）。倫理学者として恥ずかしいことではありますが、このままでは「ただ乗り」の不正に手を染めてきたと言われても仕方のないところです。というわけで、今年度は、執行委員として、組合の維持（さらには発展）のために必要な負担をきちんと引き受けたいと思っています。よろしくごお願い申し上げます（写真は卒業生からもらった似顔絵です）。

### 執行委員 佐藤 正志（教育学部支部）

教育支部の佐藤正志と申します。本年度の執行部の中では最も年下で、初めて執行部の活動に関わることになりました。

正直、まだまだ分からないことだらけで日々勉強の真っ只中です。

執行部を始め、組合員の先生方と共に学び、少しでもお役に立てられるように頑張って参りたいと思います。

私の専門としています経済地理学では、かねてより労働や雇用といった問題がしばしばクローズアップされてきました。

日頃内外の文献で見聞きしている用語についても、実際のナマの現場でどう生かし、より良い生活に結び付けられるか取り組んで参りたいと思います。

今年度は調査広報を担当します。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。



### 執行委員 村上 健司 (工学部支部)

本年度、組織法制部の仕事を担当させていただくことになりました工学部の村上です。これまで、工学部支部委員、書記長、支部長などは努めさせていただきましたが、中執の委員は初めてです。他の中執メンバーの足を引っ張らないように、努めを果たしたいと考えていますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

私は、本年度末で定年を迎える教員で、組合員歴も30年以上と現執行部では最長の部類に入ると思います。従いまして、昨今の組合員の急減には、ただただ驚くばかりです。この状況を改善するために、少しでもお役に立っていないかと思い、組織法制部の担当となりましたが、もちろん妙案を持ち合わせている訳ではありません。若い方々のお邪魔をしないよう、たまには年の功を発揮していこうかと思っております。



## ～ 5月1日 メーデーに参加しました 静岡:駿府城公園 浜松:浜松城公園 ～

(静岡参加者より)

5月1日、今年も静岡県中央メーデーに参加してきました。静岡では、ウチの組合から6名と例年並みの参加です。夏のような日差しの下、主催者からの呼びかけや友好団体から連帯の挨拶がありました。安倍政権がもくろむ「働き方改革」ならぬ「働かせ方改悪」についての批判が中心でした。

メーデー恒例の寸劇は、前川先生が、安倍くんや佐川くん、福田くんなど問題児が揃った教室で彼らを善導するというストーリーで、参加者の爆笑を誘っていました。

集会の後、市内をパレードして、解散となりました。ご参加の皆さん、暑いなかご苦労さまでした。



(浜松参加者より)

第89回メーデー集会に参加して  
赤尾晃一(情報支部 支部長)

浜松城公園中央芝生広場を見渡す場所に今年4月、スターバックスの店舗が新たに開業した。都合により、9時前に現地に着いたので、屋外テラスでカフェラ・テを飲んでた。

そうこうするうちに「しずだい」の幟旗が立ったのを目視したのを機に、広場で参加者と合流した。今年は8名もの参加があった。集会開始前に、署名・カンパなど他の労組との交流が展開するのいつもの光景だった。

今年は〈働き方改革〉法案を政権与党が提出し、野党が相次ぎ修正案を提示するなど、メーデーも久々に労働問題を争点に取り戻した感がある。むしろ、他の政治問題が争点になることを否定するものではないけれど、「8時間働いて普通に暮らせる賃金・働くルールの確立」「めざせ最賃 1500 円。全国一律最賃制の実現」など労働問題に関するスローガンが前面に出てくるメーデーは、やはり労働者の祭典の名にふさわしいと感じた。

祭典の華はプラカードクールということになるが、浜松会場では参加者(出展数)が少ないのが、さびしいところである。

個人的には、メーデー集会には比較的に参加しているほうなのだが、その主たる理由はデモ行進にある。浜松まつりの練りに先駆けて、同じ中心市街地を行進できる点が魅力なのである。かつてとは異なり、行進中は地下通路を通過させられることもなくなり、車道を堂々と行進できるのである。シュプレヒコールもよく練られたもので、爽快だった。

デモ行進の終了後、有志でランチに赴き親交を深めた。メーデー日和の初夏の午前中、実に有意義な時間を過ごせた。ただ、疲れのせいか、午後の授業が少し集中力を欠いてしまったのが難だった。「メーデーを国民の祝日に!」は永遠のスローガンである。



## 終わりに

「この働き方、働かせ方は ちょっと おかしい の で は ・ ・ ・」、  
皆さまの小さな“気づき”のなかに、労働環境を改善し、私たちの健康、安全、生命を守る方策づくりの種（シーズ）が内包されていると思います。

組合へ、どうぞその“気づき”の声をお知らせください。

健康・安全あつての仕事です。労働者視点を加味した職場改革・大学改革を、皆さまとの共助の関係性のなかで進めていくことができれば幸いです。

静岡大学教職員組合へのご加入をお待ちしております。共に支えあいましょう。

<問合せ先（組合事務局）>

静岡 2709

[suu@jade.dti.ne.jp](mailto:suu@jade.dti.ne.jp)

浜松 3910

[suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp](mailto:suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp)

